

## 会 議 録

名 称	第8回 登米市部活動地域移行準備委員会
開催日時	令和8年1月20日(火) 午後2時 開会 午後2時47分 閉会
開催場所	中田庁舎 101会議室
出席者	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 登米市中学校長会代表(米山中校長) 佐藤 智哉</li> <li>○ 登米市中学校長会代表(津山中校長) 森 美紀子</li> <li>○ 登米市中学校体育連盟会長(中田中校長) 富士原昭裕(会長)</li> <li>○ 登米市中学校体育連盟理事長(中田中教諭) 熊谷 篤</li> <li>○ 特定非営利活動法人登米市体育協会 会長 関 壮一(副会長)</li> <li>○ 登米市スポーツ少年団本部 本部長 木村 健喜</li> <li>○ 登米市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 会長 大友 勝志</li> <li>○ 元中学校美術教諭 主任児童委員 及川 英之</li> <li>○ 登米市PTA連合会 会長 石川 悟</li> <li>○ 登米市PTA連合会 副会長 渥美 雅彦</li> </ul>
事務局等職員 職・氏名	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 登米市教育委員会</li> <li>教育長 小野寺文晃</li> <li>次長兼学校教育管理監 鹿野 征美</li> <li>学校教育課長 猪股 勝徳</li> <li>生涯学習課長 千葉 敬子</li> <li>文化財文化振興課長 沼田 芳明</li> <li>生涯学習課スポーツ振興係長 高橋 道広</li> <li>生涯学習課スポーツ振興主幹 高橋 美香</li> <li>生き生き学校支援室長 高橋 利恵</li> <li>生き生き学校支援室指導主事 堀田 一真</li> <li>生き生き学校支援室一般事務員 川村真希子</li> </ul>
	<p>1 開会</p> <p>2 開会の挨拶 登米市部活動地域移行準備委員会 会長 富士原 昭裕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校では私立の推薦入試が終わり、今月末には私立の一般入試等も始まり、いよいよ入試シーズンの時期になってきている。インフルエンザも一時期と比べだいぶ収まり、このまま体調管理をしてもらい、授業はもちろん、学校行事も無事に終わればよいと思っている。</li> <li>・ 予定されていた本会議も今年度4回、昨年度から引き続き8回を無事に進められてよかった。今回が最後となり、次年度への引継ぎ、委員の方々のご忌憚のないご意見をいただきながら、登米市の子どもたちにとってより良い地域展開になればよいと思う。</li> </ul> <p>3 教育長挨拶 (他公務で遅れて参加)</p> <p>4 報告・説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 登米市地域クラブ活動団体・指導者の認定交付及び説明会(11月5日)について <ul style="list-style-type: none"> <li>→認定証交付後、地域クラブ活動団体へ、ガイドライン、周知内容、施設利用等について説明を行ったことを事務局より報告</li> </ul> </li> <li>(2) 「部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン」について <ul style="list-style-type: none"> <li>→令和7年12月に文部科学省から示されたことを事務局より報告</li> </ul> </li> <li>(3) 宮城県部活動地域移行研修会(1月14日)について</li> </ul>

→事例発表、情報交換会内容等について事務局より報告

(4) その他

○元中学校美術教諭 主任児童委員 及川 英之

- ・昨年11月に登米市美術協会展で開催した「登米市内中学生の作品鑑賞講座」で、教育長、職員の方々においでいただき、作品に対してそれぞれ豊かな感性のもと、非常に貴重なご意見を頂戴した。教育委員会や校長先生方には、ポスターの掲示や案内ハガキなど配慮いただいたが、なかなか参加には結びつかなかったのが現状。会期中には数名の中学生が新聞で展覧会を知ったと保護者と一緒に来場したが、せめて、美術部の生徒、絵や彫刻が好きな小学生や中学生に案内ハガキが渡るようになればいいなと感じた。新しいことを展開するには、認知されることの必要性や重要性を感じている。部活動の地域移行でも大切になってくると感じた。

5 協議

(1) 登米市地域クラブ活動団体の審査及び認定について

① 審査及び認定について（10月21日以降提出分）

→申請された4つの団体を「登米市地域クラブ活動団体・指導者認定基準」に基づき審査、承認

② 今後の地域クラブ活動団体・指導者の審査及び認定について

→原則、11月末日締め切り、審査を部活動地域移行実行委員会で12月上旬に行い、同月の部活動地域移行準備委員会で確認、承認してもらい認定を行うスケジュールで承認

→申請団体から相談や必要があれば、実行委員会と市中体連会長や市校長会と連携を図りながら随時審査、認定を行うことで承認

(2) 令和8年度以降の部活動地域移行準備委員会の持ち方について

- ・委員構成……登米市部活動地域移行準備委員会設置要綱に基づき、委員の選出を行い、これまで同様2年の任期で構成することを承認
- ・スケジュール…令和8・9年度の準備委員会回数については、これまで同様の8回を予定。令和7年12月に文科省から示されたガイドラインの改定に伴い、第1・2回の準備委員会は、市のガイドライン見直し、策定を図る。3回目以降は地域クラブ活動団体が始動したところなので、各団体や学校から成果や課題についての情報収集、その情報共有と課題解決に向けた取り組みについての話し合いを行う。令和10年度から休日の部活動の完全実施に持っていきけるかどうかを目途に、その在り方について検討していくことで承認

3 教育長挨拶

登米市教育委員会 教育長 小野寺 文晃

- ・大変遅くなり申し訳ない。いろいろと審議いただいたこと、大変感謝を申し上げたい。令和8年も1カ月終わろうとしており、年々加速しているように感じ、令和8年、9年度のスケジュールを協議していただいたが、8年が始まりやっているうちに9年が来て、10年が来るのだろうなと感じている。
- ・令和7年に市内で生まれた子どもの数は230人弱、中学3年生になる時には市内の中学生が700人を下回るのだろうと思う。そうなると、当然のことながら、部活動地域移行を今一生懸命やってもらっているが、子どもたちの活動をどう担保していくかと考えたときに、学校部活動の在り方や地域移行のみならず、様々な課題がのしかかってくるのだろうなという気

がする。

- ・ 社会の変化とともにいろいろなものが変わっていかなければならないというのはわかるが、冒頭に話したように、時の流れの速さが追い付かないというか、いろいろな制度や物に追い付いてきていない現状が、今の目の前でもどんどん起こっているなど感じている。
- ・ 子どもたちのニーズに応えられ、そして子どもたちの望ましい成長をサポートしていく、その体制をどう作るかということは、我々の大きな責務だろうなど思っている。それは当然、教育委員会だけ、学校だけ、地域だけでできることではなく、俗にいう社会全体でやっていかなければならないことだと思う。皆様方のお力添えはこれからもますますお願いしなくてははいけないので、ご理解をいただいたうえでお力添えをいただきたい。

### (3) その他

○登米市スポーツ少年団本部 本部長 木村 健喜

- ・ 登米市らしい部活動の地域移行と謳ってきたが現段階ではガイドラインに盛り込まれていないように感じる。15年後には市内中学生の生徒が1学年230人前後となる状況で、ぜひもっと登米市らしさというもの在今后の2年間の中で検討していかなければならないと思う。部活動に一生懸命な先生方も多いため、学校や市教委で待遇やいろいろな部分をサポートしていくのも一つの登米市らしさかなと思う。
- ・ 一番初めに課題として挙がっていた予算的な部分では、国が部活動地域移行に対する予算を掲示したが、国・県・市町村で3分の1ずつということなので、活用の検討も計画的に進めていく必要があると思う。

6 閉会の挨拶 登米市部活動地域移行準備委員会 副会長 関 壮一

- ・ 先日見た都道府県対抗駅伝で、中学生の紹介の際に学校ではなくクラブチームで出場している生徒が多くいた。部活動ではなく、クラブチームや地域移行、地域展開の流れを感じた。今回2年間の任期が終わり、また来年から新たな展開が始まる。皆様方にはこれからもますますご協力をお願いしたい。

7 閉会